

『「非国民」に思う』 牧師 望月 達朗

昨年、新聞の誤報記事に対するバッシングとして「売国」「国辱」「国賊」といった言葉が公の媒体を通して飛び交ったことが問題となりました。日本政治史に詳しい一橋大学名誉教授の渡辺治さんは、このような言葉がこれほど“市民権”を得たのはごく最近のことだと指摘した上で、『私は売国奴だ、国賊だ』と語っている人がどこにいますか。『改憲に賛成か反対か』という議論と違い、『売国か愛国か』という議論など成り立ちません。つまりこうした言葉は自由な言論を生むのではなく、言論封殺のための暴力でしかない。」と語っています。

吾妻教会にもゆかりの深い同志社の創始者新島襄は、他ならぬ愛国者でした。しかし、そうであるがゆえに国粹主義者ではなく、「一国の良心とも言うべき人々」を育てる教育を大切にしました。国を愛するが故に、時に命の観点からその不備を指摘し、ブレーキをかけることもできる、そんな良心に縛られた国のあり

方に健全さを見ていたのだと思います。しかし、「非国民」という批判は、議論の余地を与えません。国の中身を問うのではなく、国に従うか否かが判断基準とされるからです。それに加えて、多くの日本人にとっては、アイデンティティを否定されるかのような恐怖心を抱かせる言葉でもあるでしょう。

イエスはユダヤ人でありながら、民族主義や伝統に縛られず、血縁関係にすらこだわられませんでした。なぜなら、「わたしたちの国籍は天に」（口語訳：ピリピ人への手紙3:20）あり、それ故に「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女も」（ガラテヤの信徒への手紙3:28）ないつながり大切にされたからです。しかし、そのようなイエスの言動は、民族主義や伝統を固く守るユダヤ権力者に受け入れられず、最終的には十字架での処刑という結末を迎えていきました。イエスは、ある意味「非国民・非民族」のような扱いを受けて、十字架

で亡くなっていったとも言えるでしょう。しかしそれは同時に、国や民族という枠を超えた一人の人間としてのつながり、神の前に皆、価値があり、罪ある存在であるというつながりを生み出したイエスの生き様を、私たちの心に刻ませる出来事にもなったのです。「非国民」であるか否か

ではなく、天に国籍を持つ「神の国の民」として、十字架の前に立つ一人の人間として、自分の過ちを受け止めつつ、キリストの愛と赦しを分かち合う生き方を求め続ける者でありたいと願います。

～私の好きな聖書のことば～



✠✠ 小山田 摩珠子さん ✠✠

この原稿の趣旨に反して、ちょっと自分のことを話させていただきます。過日たまたま NHK のプログラムを見ていますと、日本のオーケストラの有名な指揮者へインタビューワーが、「合唱など色々指揮しておられますが、何か歌える曲がありますか」と聞かれ、その指揮者は「全然歌えませんが、讚美歌だったら歌えます」と答えられました。その時私は何だかとても嬉しかったことを覚えています。

私が子どもの頃から母と歩いて出かけると、一緒に子ども讚美歌や好きな歌を歌って歩いたことでした。

私も、半世紀前のクリスマスに、子どもの頃に通っていた杉並区（東京）の日本福音ルーテル教会で受洗し、教会学校の教師を2、3年仰せつかっていましたが、その頃から好きだった聖句は「主はわが牧者なり、われに乏しきことあらじ。主はわれをみどりの野に伏させ、憩いの水際にいざない給う、たとえ死の陰を歩むとも恐れはあらじ。（詩編 23 編）」です。私の父は50代で急逝し、私も大正生まれの兄も、すでに受洗してましたので、墓地のある東京小平霊園の墓碑に、この聖句を刻んでもらいました。また、現在住んでいる家のそばの墓地にも、同じ聖句を刻んでもらいました。ですから、お参

りする度にとっても幸せな気分になります。

その他、いつも心の中にある聖句は「疲れた者、重荷を負っている者はだれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう（マタイ 11 章 28 節）」です。

✠✠ 山口 藤子さん ✠✠

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。（テサロニケの信徒への手紙 I 15 章 16～18 節）」

この朝も元気に目覚め、起き上がることができましたことを感謝いたします。目覚めてつい大声で「感謝、感謝!!」と叫んでいると、家族には、うるさがられてしまいますが、私にとって安眠が守られ、今日も新しい 1 日が始められる目覚めの時は、心からの喜びなのです。

84 歳を目前にして、身体の衰えをあちらこちらに感じ、少しずつ、生まれた場所に帰ろうとしている我身を思うことの多くなった日々です。加齢による体のパーツの衰えで、不便さに悩まされ、「弱くて無力、優柔不断で軽率な人間である自分はダメだ!」と毎日何度思うことでしょうか。落ち込むと次々否定的な思いが浮かび、悪循環をおこしてしまいます。そんな時、何時も示されるみことばが、前述の「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことに感謝しなさい」なのです。

喜ぶ要因など少なく、みことばが虚しく響くのですが、不出来な私を全て神はご存知ですから、更にこのみことばをお示しくくださいます。そして難しいみことばを「わたしと共にやろう」と、神さまが背を押してくださっているようで、大変好きになっているメッセージなのです。

一歩進んでは十歩後退するような私の歩みではありますが、周囲の方々の助けを頂き、思い煩わず、全てをお委ねして、種が備えてくださっている道を、みもとに招かれる日まで、ゆっくり穏やかに主を仰ぎ見つつ歩むことができたなら感謝だなあーと思っております。

吾妻教会今後の主な予定

- ★4月 5日（日）イースター礼拝
- ★4月 12日（日）墓前の集い…教会墓地にて礼拝し、昼食をとります。
- ★4月 26日（日）教会総会…教会の一年の歩みを決める大切な総会です。
教会員は万障お繰り合わせの上、ご参加ください。
- ★5月 10日（日）教会創立 126 周年記念礼拝…井殿園先生に説教を担当して
いただきます。

～どうぞ覚えてご出席ください～



←今年も富澤さんご夫妻からパンジーをいただきました。

↓就職のため吾妻を去られる望月恵介さんの
送別会が行われました。



↓毎回盛会の土曜クラブ主催映画上映会



日本キリスト教団 吾妻教会（創立 1889 年 5 月 7 日）

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町 444-9

主任牧師 望月 達朗

TEL0279-68-4730

<http://www5.ocn.ne.jp/~agatu-ch/>

牧 師 望月 奈津子